

## -2 魚がのぼりやすい川づくりとは

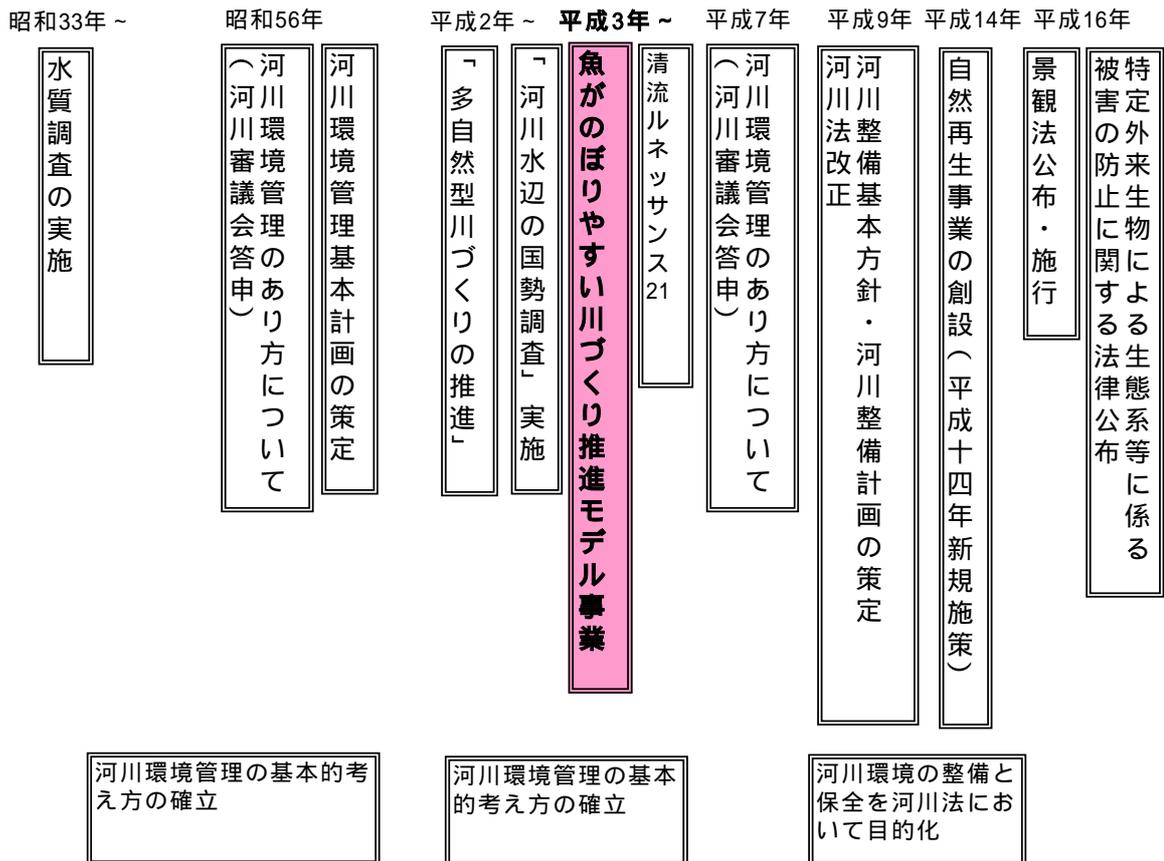
### 1.魚がのぼりやすい川づくり推進モデル事業

#### (1)モデル事業の背景

河川は、様々な生物を育む貴重な空間であり、我が国の多様で特徴的な自然環境の形成に大きな役割を果たしてきた。一方、洪水氾濫や土石流は人々の生命や財産を脅かしてきた。このため、水害や土砂災害から安全な国土を求める要請は強く、河川の流れを技術的に制御する方法で河川の整備を進めてきた。

この整備により、治水上の観点からは一定の成果をあげてきたが、その一方で、河川の自然環境や景観に大きな影響を与えてきた。

このような状況を踏まえ、平成3年には、「魚がのぼりやすい川づくり推進モデル事業の実施について」が発出（建設省河川局長通達）され、モデル河川において魚類の遡上・降下環境の改善対策が行われることになった。



## (2)モデル事業の経緯

「魚がのぼりやすい川づくり推進モデル事業」は、豊かな水域環境の創出をより積極的に推進するため、「魚がのぼりやすい川づくり推進モデル事業実施要綱」を定め、地域のシンボルとなっている河川等について、堰、床固、ダム及び砂防堰堤等とその周辺の改良や魚道の設置、改善及び魚道流量の確保等を計画的に行い、全国の河川等のモデルとして魚類の遡上・降下環境の改善を積極的に行う事業である。

モデル事業では、委員会からのアドバイスなどを頂きつつ、魚の遡上・降下を阻害する要因として主に河川横断施設や流況の悪化等に注目し、以下のような環境改善を行ってきた。

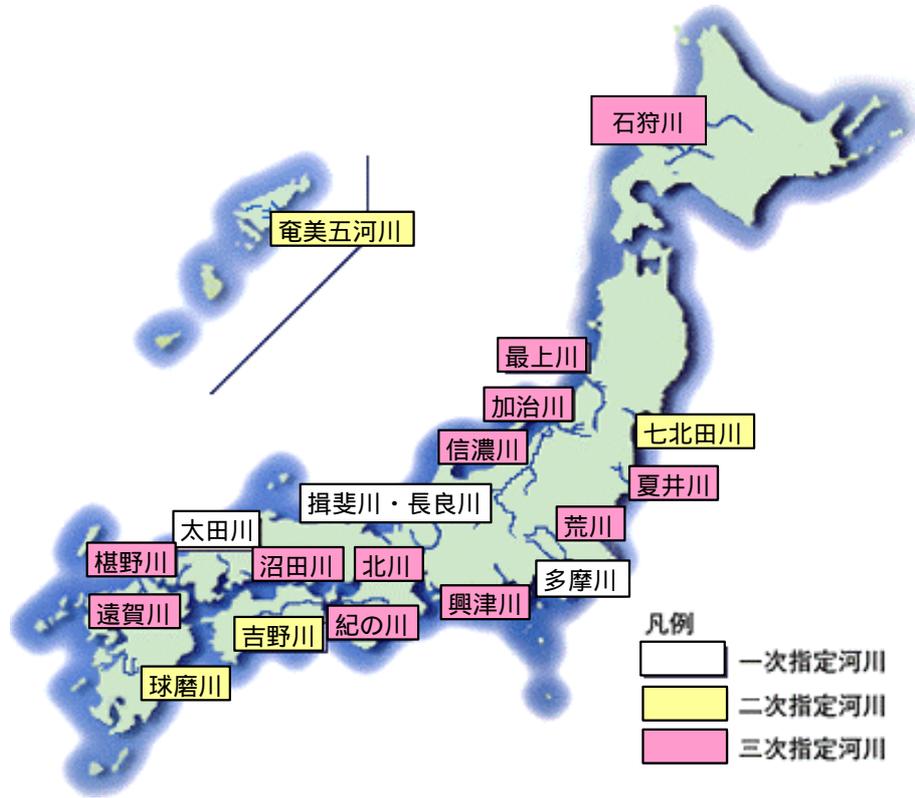
- ・ 河川横断施設の改築
- ・ 魚道の改築及び新築
- ・ 流況改善（減水区間における試験的な流量増加）
- ・ 生息環境の改善として水際植生の確保（植栽、河畔林の保全、多自然工法）、ワンド形成（低水水制）等

各モデル河川では、これらの環境改善のために適切な目標設定の手法、対策、工夫点等、事業の推進に必要な検討を行うとともに、事業推進に係る調整事項の検討や技術的な課題等の整理による技術レポートを作成しており、今後の事業展開に活かすこととしている。

### <魚がのぼりやすい川づくり推進検討委員会 メンバー>

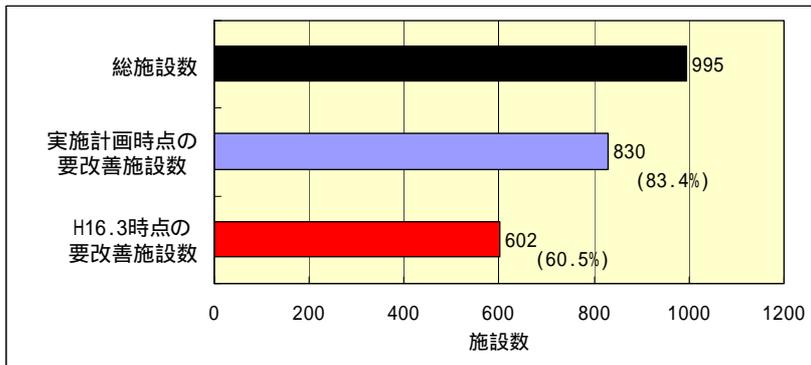
|       |       |                     |
|-------|-------|---------------------|
| 歴代委員長 | 中村 中六 | 広島大学 名誉教授           |
|       | 水野 信彦 | 愛媛大学 名誉教授           |
|       | 石田 力三 | 水産環境研究所 総合顧問        |
| 歴代委員  | 栗野 圭一 | 全国湖沼河川養殖研究会 会長      |
|       | 岩崎 治臣 | 全国湖沼河川養殖研究会 会長      |
|       | 大渡 斉  | 全国湖沼河川養殖研究会 会長      |
|       | 川瀬 好永 | 全国湖沼河川養殖研究会 会長      |
|       | 佐藤 稔  | 全国内水面漁業協同組合連合会 顧問   |
|       | 柴田 敏隆 | 日本自然保護協会 顧問         |
|       | 田崎 志郎 | 全国湖沼河川養殖研究会 会長      |
|       | 田中 寿雄 | 全国湖沼河川養殖研究会 会長      |
|       | 玉井 信行 | 金沢大学工学部 教授          |
|       | 塚本 勝巳 | 東京大学海洋研究所 教授        |
|       | 中村 俊六 | 河川生態環境工学研究所 代表      |
|       | 中村 靖彦 | 明治大学農学部 客員教授        |
|       | 橋本 啓芳 | 全国内水面漁業協同組合連合会 専務理事 |
|       | 福岡 捷二 | 中央大学研究開発機構 教授       |
|       | 福田 稔  | 全国湖沼河川養殖研究会 会長      |
|       | 堀 賢平  | 全国湖沼河川養殖研究会 会長      |
|       | 増井 光子 | 横浜動物園ズーラシア 園長       |
|       | 和田 吉弘 | 中部学院大学短期大学部 副学長     |

歴代委員長は就任順、歴代委員は五十音順  
肩書きは委員就任時のもの（最終の肩書き）

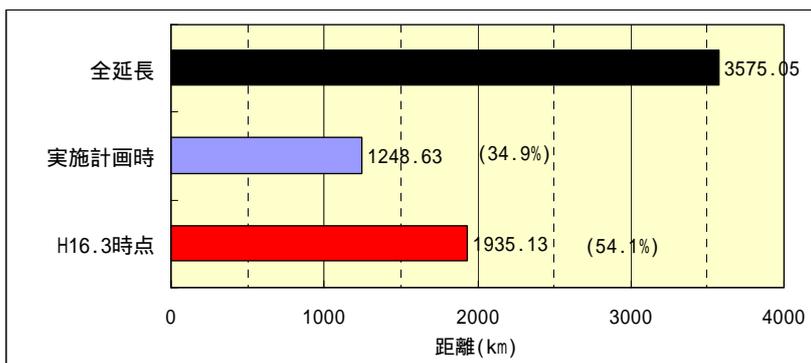


一次指定河川 (平成3年度指定)  
 二次指定河川 (平成4,5年度指定)  
 三次指定河川 (平成6年度指定)

「魚がのぼりやすい川づくり推進モデル事業」指定河川一覧



( )内の%は、総施設数に対する要改善施設数の割合を示す。



( )内の%は、全延長に対する各時点の移動可能距離の割合を示す。

モデル事業の進捗状況 (平成16年3月時点)

## 2. 「魚がのぼりやすい川づくり」の今後の展開

「魚がのぼりやすい川づくり」については、平成 16 年度でモデル事業を終え、平成 17 年度以降は全国的に展開することとしている。そのため、これまでのモデル河川での取り組みにおける経験、失敗例及び工夫点等に基づき、全国展開のために本手引きを作成した。

今後の事業展開に当たっては、以下のようなポイントを重視する。

産卵場や隠れ場所等の確保や流量・水質等、魚類の生息環境の改善についても一体的に取り組む。

魚道整備の優先順位の設定や設計条件の設定のため、回遊性の魚類の行動パターンや生活史を河川ごとにとりまとめる。

技術的なノウハウ、対外調整、魚道の成功・失敗例等を整理し、今後の取り組みに生かす。なお、その際には魚道の新設だけでなく、既設の諸施設の改善・再生にも積極的に取り組む。